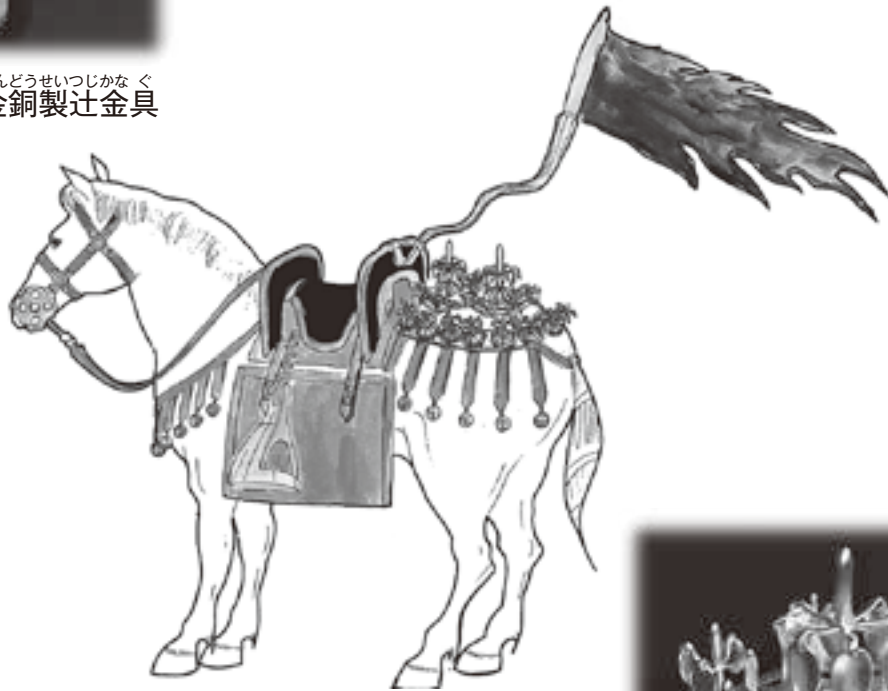


平成 29 年度

古賀市立歴史資料館要覧



そうしよくつきこんどうせいじかなぐ
ガラス装飾付金銅製辻金具



こんどうせい ほ ようつきがざりかなぐ う ず すいていふくげん ず
金銅製歩揺付飾金具（雲珠）推定復元図

（九州国立博物館提供）

古賀市教育委員会 文化課

目 次

施設の概要	1
1. 歴史資料館の沿革	2
2. 歴史資料館の活動目標	5
3. 歴史資料館の組織 予算・決算	6
4. 歴史資料館の利用案内	7
5. 平成28年度事業報告及び平成29年度事業計画	8
6. 歴史資料館の利用状況	12
7. 歴史資料館事業	13

施設の概要

歴史資料館	1,653,977 m ²		
歴史資料館事務室	24 m ²	ギャラリー	230.52 m ²
展示室	497.57 m ²	文化課事務室	54 m ²
収蔵庫	90 m ²	研修室	54 m ²
修復作業室	68 m ²	控室	14.4 m ²
中会議室	135.33 m ²	倉庫・機械室他	486.157 m ²



1. 歴史資料館の沿革

昭和47年、日本住宅公団による花鶴丘団地の開発を機に鹿部山を中心に数多くの遺跡の存在が確認され、同年古賀町文化財研究会が発足し、福岡県教育委員会、九州大学文学部考古学研究室と合同で鹿部山遺跡発掘調査を行いました。この調査を契機に古賀町の文化財への関心が高まり、その後、古賀町文化財研究会は町内の研究者を委員とした古賀町文化財調査委員会として長く活動を続け、平成15年には古賀市文化財保護審議会へ発展しました。

古賀町は昭和30年に、旧古賀町、青柳村、小野村の一町二村が合併して誕生しました。合併30周年記念事業の一環として、古賀町誌の発行が企画され、昭和57年に古賀町文化財調査委員会が編纂委員となって編纂が開始され、昭和60年に古賀町誌を発行しました。これを契機に郷土誌(史)研究が広がり、昭和60年から歴史講座を開講しました。こうした郷土の歴史文化財の関心の高まりが、平成6年の歴史資料館開館の機運を導きました。

年号	年	月	事 跡
平成	4	8	古賀町複合文化施設建設検討委員会発足
	6	11	複合文化施設サンフレアこが(2階)に歴史資料館開館
	8	4	初代館長 安武 敏夫 就任
		9	企画展「くらしック民具展」
	9	8	企画展「旧石器時代展」
		10	企画展 古賀市市制施行記念「江戸時代展」
10	2		企画展「ふるさとの仏像展」
	4		永浦古墳群発掘調査(甲冑他出土遺物一括平成17年に県指定文化財)
	8		企画展「ふるさとの道と文化」
11	2		企画展「こがの近代工業のあゆみ」
	3		企画展「滑石は語る」
	8		企画展「海辺のおくりもの～玄界からのメッセージ～」
12	1		企画展「古賀の絵馬 神に託したふるさとの心」
	4		第2代館長 石井 忠 就任
	8		企画展「みる きく ふれる考古学」
			鹿部田淵遺跡発掘調査で大型建物群跡確認(平成21年県指定史跡)
	9		企画展「唐津街道の宿場 今よみがえる青柳宿」
13	6		馬渡・束ヶ浦遺跡発掘調査(青銅武器一括平成20年県指定文化財)
			広報こが「海からのメッセージ」の連載開始
	8		企画展「甍の波-薬王寺廃寺と古賀の瓦業」
			博物館実習受け入れ開始
14	7		企画展「剥製動物園 里山の動物」
	10		糟屋地区文化財巡回展「発見!かすや」

年号	年	月	事 跡
平成	14	11	漂着物学会福岡大会(第2回全国大会) 漂着物特別展開催
	15	5	歴史講座を自然史・歴史講座と改称し、年間受講制とする
		8	企画展「古賀のむかし 鹿部山遺跡から馬渡・束ヶ浦遺跡まで発掘の30年」
		9	古賀市文化財保護審議会が発足し、会長に西谷 正 九大名誉教授 就任
	16	1	糟屋地区文化財巡回展「なつかしのオモチャ展」
		7	企画展「シーカヤックをつくる 黒潮の果て 極北民族の技(アリユートの皮船)」
		11	第19回国民文化祭ふくおか2004 とびうめ国文祭 in 古賀開催「風と潮のロマンス 対馬暖流漂着ものがたり」
	17	4	古賀市市制施行10周年記念誌編纂開始
		10	企画展 九州国立博物館開館記念協賛「甲冑に身を固め、頭椎大刀を佩いた人たち」
	18	1	糟屋地区文化財巡回展「糟屋の古墳」
		7	企画展「稲作に勤しむ」
	19	7	企画展「古代幻想-小林恒火子の世界-願いかなえたまえ」
		11	古賀市市制施行10周年記念誌『古賀市うるわし』刊行 古賀市市制施行10周年記念企画展「版画で歩く唐津街道」
	20	7	企画展「仮面の告白 お面にこめられた喜怒哀楽」
	21	7	古賀市複合文化施設運営協議会設置
		8	企画展「郷土への眼差し-先人たちの足跡-」
		9	複合文化施設2階フロアー入館者総数20万人突破 企画展臨時企画展「胡蝶乱舞 一つのものを追いかけて」
		11	企画展「『百のうた千の想い 甦る平和百人一首』原画展」
	22	7	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵民具整理台帳作成業務開始 企画展「古銭への誘い」
		11	鹿部田淵遺跡が整備され、古賀市で初めての史跡公園「みやげ史跡公園」が開園 企画展「甦る鹿部田淵遺跡の時代」
	23	3	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵民具整理台帳作成業務完了
		4	自然史・歴史講座の通年受講制を廃止。毎回参加者を募集し、開催日を原則土・日曜日と改める
		7	企画展「寄贈物譚」
		8	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務開始
		11	企画展「木村辰也の邪馬台国版画展」
	24	3	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務完了
		7	企画展「キノコの博物誌」
		11	企画展「赤星孝生誕100年展」

年号	年	月	事	跡
平成	25	2	個人所蔵古文書等資料デジタル化業務開始	
			個人所蔵古文書等資料デジタル化業務完了	
		4	第3代館長 村山 美婦子 就任	
		5	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵古文書の保存・後世 伝承業務開始	
		7	企画展「石碑のつぶやき」	
		11	福岡県緊急雇用対策事業 古賀市教育委員会所蔵古文書の保存・後世 伝承業務完了	
	26	7	企画展「ゴジラを支えたデザイナー『特撮美術監督 井上泰幸展』」	
		11	開館20周年記念特別展「『企画展を振り返る』 時を超え、そして未来へ」	
	27	2	古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務開始	
		3	古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務完了	
		7	企画展「昔話と道具たち」	
	28	12	古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務開始	
		2	古賀市教育委員会所蔵古文書等資料デジタル化業務完了	
	29	4	第4代館長 木村 眞由美 就任	
		7	「古賀市複合文化施設サンフレアこが 市立歴史資料館」の名称廃止 〔古賀市複合文化施設条例廃止〕 古賀市複合文化施設運営協議会の廃止 〔古賀市複合文化施設運営協議会設置規則廃止〕	
		8	「古賀市生涯学習センター（通称：リーパスプラザこが）市立歴史資料 館」へ名称変更〔古賀市生涯学習センター条例施行〕	
		10	船原古墳国史跡指定	
		11	国史跡指定記念企画展「船原古墳展」	
		7	企画展「海からのメッセージ」	

2. 歴史資料館の活動目標

歴史資料館の運営方針

- (1) 古賀の歴史がわかる重要な資料・遺物は常設展示とし、分かりやすい展示に努める。
- (2) 企画展、自然史・歴史講座などを開催し、市民の自然・歴史に対する理解や関心を深める。
- (3) 日常的に情報を発信するとともに、展示ケースを使用した小規模展示などで、市民に積極的に利用される資料館づくりを行う。
- (4) 考古、歴史、民俗、博物学など幅広い展示を行い、市民に学習機会の提供を行う。

平成29年度の目標

- (1) 郷土古賀の歴史を学習する自然史・歴史講座を年4講座(市民対象：3講座・子ども対象：1講座)開催し、講演会、体験学習及び史跡・社寺等に出向いての現地学習などを行い、参加者の歴史への興味を高めるとともに、郷土古賀のよさを知ってもらう機会とする。
- (2) 小学生を対象に「子ども考古学部」を発足し、年4回の体験学習を実施する。古代の体験や、文化財係職員の話を通じて、大昔の人々の生活を学ぶことができるようにする。
- (3) 国史跡船原古墳に関しては、「広報こが」や地域の情報誌及び古賀市ホームページやフェイスブックでの情報発信に努める。また自然史・歴史講座で九州歴史資料館や古賀市周辺の古墳見学などの活動を行い、併せて歴史資料館での最新情報の展示などで市民の関心を高めていく。
- (4) 古文書、民具、昔の写真など郷土に関わる資料の収集を行うとともに、地域の高齢者から昔の生活の様子などの聞き取りを行い、それらの整理・保存に努める。
- (5) れきしのアルバムNo41「船原古墳」を発行する。

3. 歴史資料館の組織 予算・決算

組 織

(平成29年5月現在)

職員内訳…館長1名、係長1名、職員2名、臨時職員2名

	区 分	事 務 分 掌
1	館 長 (歴史資料館)	歴史資料館の統括、渉外
2	係 長	歴史資料館の統合的な管理・運営、業務の統括指導
3	職 員	企画展、自然史・歴史講座、常設展示事務、冊子販売事務、施設見学受入事務、就業体験受入、広報業務、ホームページ更新、資料の収集・整理・保存・管理、寄贈品の受入ほか

予算・決算

(平成29年5月現在)

経費	経 費	平成28年度 決算額	平成29年度 予算額	摘 要 (平成29年度)
	合計(A+B)	22,243,665	22,138,425	
A	人件費	19,620,664	21,002,425	職員2名、嘱託職員1名、臨時職員2名、企画展臨時職員2名
B	企画展、自然史・歴史講座の経費	2,061,609	492,000	企画展1回(※) 自然史・歴史講座(5講座:計7回) 子ども考古学部4回
	物品・施設修繕料	0	0	物品等修繕料及び展示室修繕料
	資料製作委託料	110,181	111,000	古文書デジタル化業務委託
	運営事業費	178,780	77,000	要覧等印刷費
	その他の事務費	272,431	456,000	

(※)平成28年度の企画展は文化課文化財係の所管事業〔国史跡指定記念企画展「船原古墳展」〕

4. 歴史資料館の利用案内

市民の教育、学術及び文化の発展を支援するため、文化的価値を有するさまざまな資料を展示するとともに、見学者の質問に応じている。

開館時間	火曜日～日曜日 午前10時～午後6時	
休館日	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週月曜日（※平成28年8月以降は、月曜日が祝日の場合は、翌平日） ・原則として月の第4木曜日（資料整理日） ・年末年始（12月28日～1月4日） ・特別整理期間 ・企画展の前後は資料入れ替えのため臨時休館 	
入館料	無料	
展示	展示室	縮尺5000分の1の古賀市全体の地形模型とバックモニターで古賀市の史跡・文化財・民話などを紹介
		主に市内で出土した考古遺物、民俗資料などを展示
		可動式ショーケースなどを使い、テーマを定めたスポット展示（1～2ヶ月程度）を実施
展示	展示室	市内の史跡・文化財などを収録したDVDを閲覧できるコーナー設置
		縮尺5分の1の「船原古墳遺物埋納坑遺物出土状況模型」（レプリカ）を展示・九州歴史資料館の船原古墳最新情報パネル展を年1回実施
	ギャラリー	年1～2回ほど歴史資料館事業の企画展を開催
自然史・歴史講座事業	古賀市内や周辺の世界と歴史を学び郷土古賀を再認識できるよう、講座（講演会・現地学習・体験学習など）を開催	
その他	見学者（団体など）に対する館内展示資料の説明や、プロジェクターなどを用いたミニ講座の開催（要事前申請）、史跡マップ、展示資料パンフレットなどの資料提供	

歴史資料館展示例 《昔の道具、今の道具展示の一例》



『KURASHI NO REVERS EVOLUTION』

小学3年生社会科「かわってきた人々の暮らし」の学習で、昔の道具の使い方を知り、現代はどのようなものに変化して来たのかを、カードを使って学ぶことができる。

5. 平成28年度事業報告及び 平成29年度事業計画

(1) 平成28年度事業報告

《自然史・歴史講座、企画展》

事業名・講師等	開催日	参加者数	内容〔開催場所〕
第1回自然史・歴史講座 【現地学習：バス利用】	6月12日(日)	36人	「船原古墳の馬具に注目！」 〔九州歴史資料館〕 船原古墳出土馬具の最新情報の講演、九州歴史資料館バックヤードツアー、パネル展
第2回自然史・歴史講座 【夏休み子ども歴史講座】	7月27日(水) 7月29日(金) 8月6日(土) 8月17日(水) (8月17日は午前・ 午後の2回開催)	37人	「船原古墳と馬具のナゾ」 〔歴史資料館 中会議室〕 船原古墳の解説・紙粘土を使って低中学 年は馬、高学年は船原古墳のミニチュア作 成・「きゅうばっく」の体験キット
第3回自然史・歴史講座 【講演】 講師：重藤 輝行 氏 (佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授)	11月19日(土)	141人	「船原古墳出土馬冑について」 《企画展関連事業》 〔リーパスプラザこが 多目的ホール〕 ・「船原古墳の馬冑報告」文化財係岩橋 ・講演 重藤 輝行 氏
第4回自然史・歴史講座 【現地学習：バス利用】 ボランティアガイド3名	3月24日(金)	39人	「柳川で古賀の歴史に出会う ～戸次道雪・立花宗茂と薦野氏・米多比氏～」 〔柳川市内〕 三柱神社・福巖寺・米多比隅・宮永様・立花 家資料館・柳川藩主立花邸「御花」他
自然史・歴史講座合計		253人	
企画展 【歴史資料館内展示】	11月1日(火)～ 12月11日(日)	1,750人	国史跡指定記念企画展「船原古墳展」 〔歴史資料館〕 馬冑等の展示
合 計		2,003人	

《資料館展示》

資料館展示室 の展示	<p>歴史資料館展示室の展示資料について大幅な見直し・入替えを行うとともに、キャプション(説明文・名札)についても、文字を大きくし、ふりがなを振るなど、市民に解りやすい表示にした。</p> <p>12月11日までの企画展「船原古墳展」後の常設展示も、展示パネル、展示方法などを刷新し、船原古墳に関する最新情報の展示などを行った。また、鹿部田淵遺跡・船原古墳については古賀市の重要な史跡であることから、パネルを大型で文字が見やすいものにつくりかえた。</p>
---------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

《通年の活動》

○広報業務

- ・平成28年4月から平成29年3月まで「広報こが」に歴史資料館展示室の展示内容や企画展、自然史・歴史講座のお知らせなどを掲載した。
- ・併せて自然史・歴史講座の講演会及び企画展については、市内公共施設などにポスター掲示、チラシ配布を行い、ホームページやフェイスブックによる周知を図った。
- ・子どもに関する事業は、市内校長会にて別途案内を行った。

○教育普及業務

児童・生徒の教科学習や就業体験、一般団体の見学を受入れた。

小学校教科学習・見学	6校	市内の小学校6校〔うち1校は2回〕
古賀特別支援学校	1校	
古賀中学校見学	1校	古賀市内の施設見学
古賀市内中学生ドリームステージ	1校	中学生の職場体験
一般団体見学	4団体	
高等学校就業体験	1校	福岡工業大学附属城東高等学校

○刊行物

- ・「古賀風土記vol3」新版 3,000部

○所蔵資料整理業務

古賀市教育委員会又は個人所蔵の古文書について、後世継承のためデジタル化を行い、保存に努めた。

○資料収集整理活動

平成28年度の寄贈者は3人。

- ・小松屋旅館の卓台等245点
- ・「裏糟屋庄屋文書」(福岡県裏糟屋郡 “諸村より嘆願”)
- ・書籍『平井一快日記録解題(改訂)』1冊(平井一快日記録研究会発行)

このほか、昔から地域で行われてきた祭や行事、産業、生活の様子など古賀の歴史に関する事項について、その地域の高齢者などに話を聞いて、記録に残した。

また個人所蔵の古文書類の確認作業などを行い、郷土史料(資料)として保存できるよう情報収集を行った。

(2) 平成29年度事業計画

《自然史歴史講座・企画展・資料館展示》

事業名・講師等		開催予定日	内 容(仮 題)	場所(予定)
第1回自然史・歴史講座 【現地学習：バス利用】		6月4日(日)	「船原古墳の馬具に注目！ ～九州歴史資料館科学調査最前線～」	[小郡市] 九州歴史資料館
第2回自然史・歴史講座 【講演】 講師：桑田 和明 氏 (古賀市文化財保護審議会委員)		7月1日(土)	「戦国時代の <small>こもの</small> 薦野氏と <small>ねたみ</small> 米多比氏」	歴史資料館中会議室
第3回自然史・歴史講座 【体験学習】 [全3回]		8月18日 13:30～15:30 8月20日 10:00～12:00 13:30～15:30	「夏休み子ども歴史講座 ～船原古墳と馬具のヒミツ～ 対象：小・中学生(1回10人程度) ※船原古墳についての説明及び船原古墳出土 <small>こも</small> 葉模型作成	歴史資料館中会議室
子ども考古学部 (新企画)	第1回 第2回 第3回 第4回	10月 11月 12月 1月	「古代の人の生活を体験しよう」 対象：小学生(10～15人程度) ※全回同じメンバーによる活動	歴史資料館中会議室
第4回自然史・歴史講座 【現地学習：バス利用】 ガイド：秋月観光ボランティア		12月1日(金)	「歴史ウォーク in 秋月」	[朝倉市秋月] 秋月の史跡、 朝倉市秋月博物館
第5回自然史・歴史講座 【現地学習：バス利用】 ガイド：文化財係職員		3月中旬頃	文化財係職員とめぐる 「船原古墳と福津市・宗像市の 古墳探訪～」	[古賀市・福津市、宗像市] 古墳数箇所
企 画 展	展示	7月25日～ 8月31日	「海からのメッセージ」 ・石井前館長の収集物(漂着物) ・古賀の海に関する歴史 ・フォトコンテスト(小・中学生) 8月5・6日 海からの贈り物制作	歴史資料館ギャラリー
	企画展記念講演 講師：花田勝広氏 (滋賀県野洲市教育委員会)	8月11日(金・祝)	「太平洋戦争、忘れ去られた計画 ～玄界灘沿岸の戦争遺跡～」	歴史資料館中会議室
資料館展示 船原古墳に関する最新情報パネル展		常 設	九州歴史資料館の調査・成果などに関する最新情報などをパネル展示	歴史資料館展示室
資料館展示 スポット展示		年間数回	テーマを設けて一定期間展示	歴史資料館展示室

※歴史資料館展示室にて実施する船原古墳に関する最新情報パネル展については、市の施設などにおいても出張展示(ミニ展示)を行い、船原古墳についての情報を発信する。

《通年の活動》

○広報業務

- ・「広報こが」に歴史資料館展示室の展示内容や企画展、自然史・歴史講座のお知らせなどを掲載する。
- ・併せて自然史・歴史講座の講演会及び企画展については、市内公共施設などにポスター掲示、チラシ配布を行い、ホームページやフェイスブックによる周知を図る。
- ・子どもに関する事業は、市内校長会にて別途案内を行う。

○職員研修

- ・近隣の歴史資料館などを視察見学し、県主催研修等に参加する。

○教育普及業務

児童・生徒の教科学習や就業体験、一般団体見学などの受入を行う。

- ・小学校の社会科・総合的な学習や一般団体の見学
- ・市内中学校の職業体験「ドリームステージ」
- ・高等学校の就業体験「インターンシップ」

○刊行物

- ・企画展来館者配布用「パンフレット」 2,000部
- ・「れきしのアルバム」のうち在庫僅少号1種の改訂版 500部、第41号新版「船原古墳」1,500部

○所蔵資料整理業務

古賀市教育委員会又は個人所蔵の古文書について、後世継承のためデジタル化を行い、保存に努める。

○資料収集整理活動

民俗資料などの寄贈を受けた場合に、資料の性質を見極めて受入れを行う。

また、昔から地域で行われてきた祭や行事、産業、生活の様子など古賀の歴史に関する事項について、その地域の高齢者などに話を聞く。

個人所蔵の古文書類の確認作業などを行い、郷土史料(資料)として保存できるよう情報収集・整理を行う。

6. 歴史資料館の利用状況

(1) 開館日数及び来館者数

月	開館日数	来館者数	月	開館日数	来館者数
4月	25日	560人	12月	20日	914人
5月	24日	618人	1月	23日	1,110人
6月	25日	471人	2月	22日	997人
7月	26日	753人	3月	21日	606人
8月	25日	943人			
9月	25日	616人	合計		9,448人
10月	20日	605人	月平均		787人
11月	26日	1,255人	日平均		34人

※平成27年度までは、2階部分の来館者数(含ギャラリー、中会議室)を資料館が集約していたが、平成28年度からは、生涯学習推進課に貸館業務が移管したため、平成28年度分は歴史資料館来館者のみの数字

7. 歴史資料館事業

(1) 企画展

国史跡指定記念企画展「船原古墳展」
(文化財係所管事業と連携して実施)

【展示など】

「船原古墳出土遺物」…馬冑・鈴などの他、福津・宗像市内の古墳からの出土遺物も展示

会 期：平成28年11月1日(火)～12月11日(日)

会 場：古賀市立歴史資料館

来館者数：1,750人

船原古墳が平成28年10月3日に国史跡指定を受けたことを記念し、第1部「古墳の出現から船原古墳へ」、第2部「出土品から見る船原古墳」、第3部「最新技術を用いた調査」の3部構成で展示を行った。

今回は保存処理作業中ではあったが、日本で3例目の発見となる「馬冑」を展示物のメインに据えたうえで、福津・宗像市内の古墳からの出土遺物も同時に展示することで、船原古墳出土遺物との関連を探る工夫をした。また遺物埋納坑1号土坑と馬冑のCG(コンピュータグラフィックス)を作成し、遺物出土状況や馬冑の構造が来館者にも確認出来るようにした。更に遺物埋納坑1号土坑の実物大シートを資料館入り口に設置し、来館者への説明に活用した。

図録は、専門家にも活用できるように、考古学の専門性を重視して作成し、資料館の展示パネルは、一般の方や小・中学生にも読めるように図を用いて分かりやすく展示した。



国内3例目の発見となる馬冑が、クリーニングを終えて、古賀市に里帰り。



現代の最新技術を駆使した調査の成果を、CGを使って再現。様々な角度から遺物埋納坑1号土坑と馬冑を見ることができ、効果的な展示であった。

(2) 自然史・歴史講座 全4回 参加者総数 242人

第1回 「船原古墳の馬具に注目！」〔現地学習／バス利用〕

実施日：6月12日(日)

見学先：九州歴史資料館

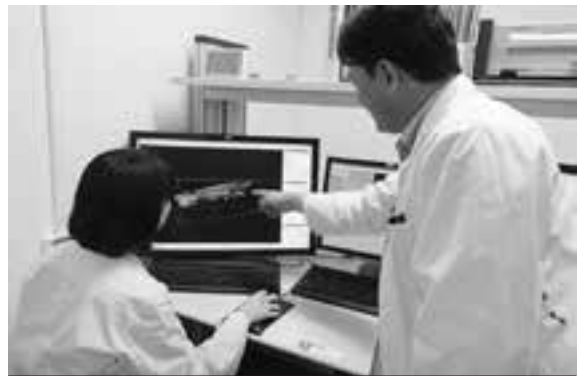
参加者数：36人

現在、船原古墳出土遺物は土ごと掘り上げられ、九州歴史資料館で調査、クリーニング及び保存処理が行われている。今回は市民の方に船原古墳出土遺物の最新情報を知ってもらうための講演と、実際に遺物の調査を行っているバックヤードツアーの2本立てで現地学習を実施した。

九州歴史資料館小林研究員から、船原古墳遺物埋納坑の発掘時の様子や現在調査中の馬冑についての最新情報を聞いた後に、日ごろは入ることができないバックヤードにて、保存処理中の馬冑(日本で3例目の発見)を間近に見学した。参加者は大変熱心に見学し、九州歴史資料館保存管理班班長である加藤研究員にも質問をするなど、船原古墳への関心が高まったと思われる。



小林研究員から馬冑、杏葉及び轡について最新内容の報告。



バックヤードでの最新器機を使った調査の様子

第2回 子ども自然史・歴史講座「船原古墳と馬具のナゾ」(全5回)

実施日：7月27日(水)・7月29日(金)・8月6日(土)・8月17日(水)

(8月17日は午前と午後の2回開催)

会場：リーパスプラザこが歴史資料館 中会議室

参加者数：37人(小学1年生から6年生まで)

講座冒頭に、パワーポイントを用いて、旧石器時代から古墳時代までの人々の生活を説明し、古墳が何のために作られたのか、そして船原古墳から出土した遺物の内容を紹介した。

その後、低・中学年は紙粘土で馬を作り、ビーズ等で馬を装飾(杏葉・雲珠・蛇行状鉄器など)した。高学年は紙粘土で石室や前方後円墳を作り、船原古墳から出土した遺物の写真や解説を作成した。粘土が乾くまでの間に銅鏡のレプリカに触れる、古代の衣装を着る等の古代体験学習を行い、また発掘に携わった文化財担当職員から船原古墳出土の土

器の説明を受けた。最後に、古墳時代の武人の衣装を着て、作品を持って写真を撮った。

歴史に興味のある子どもたちが集まったため、大変意欲的な活動をする事ができた。船原古墳への知識とともに、大昔の古賀市にも有力者がいたことを学んだことで、古賀市の歴史への関心も高まったと考える。これからも歴史資料館に足を運んでくれることを期待したい。



小学生作品の一部



石器時代から古墳時代までの歴史と船原古墳出土遺物についての話をした。



船原古墳から出土した本物の土器の説明を聞き、触れる体験を行った。本物とあって、大変興味を持っていた。



紙粘土で馬を作り、ビーズやモールなどを馬具にみたてて飾りつけた。

第3回 企画展関連講演会「船原古墳出土馬具について」

実施日：11月19日(土)

講師：重藤 輝行氏(佐賀大学芸術地域デザイン学部 教授)

会場：リーパスプラザこが交流館 多目的ホール

参加者数：141人

講演に先立ち、古賀市教育委員会文化課文化財係の職員から、「船原古墳の馬冑」の構造や製造技術の高さ、朝鮮半島出土馬具との関連性などについて報告を行った。続いて重藤教授からは、船原古墳研究や議論の前提となる古墳時代とはどのような時代だったのか、史料をもとに政治や社会の動き、外交などについて説明がなされた。その上で、船原古墳は古墳時代終末期における古墳の意義を考える重要な資料となること、また朝鮮半島とのかわりを示す馬具類、軍事力の強さを示す大量の武器類などからも被葬者の権力の大きさを知ることが出来ることなどを解説された。



古賀市教育委員会文化課文化財係の説明



重藤教授の講演

第4回 「柳川で古賀の歴史に出会う～戸次道雪・立花宗茂と薦野氏・米多比氏～」 〔現地学習／バス利用〕

実施日：平成29年3月24日(金)

見学先：柳川市(三柱神社・福巖寺・米多比隅・宮永様・立花家資料館・
柳川藩主立花邸)

ガイド：柳川市観光ボランティアガイド3名

参加者数：39人

古賀市ゆかりの武将、^{こもの}薦野氏と^{ねたみ}米多比氏の歴史を訪ねて、柳川での現地学習を実施した。定員40名に対して121名の応募があり、出発前から市民の関心の高さをうかがうことができた。

往復の車中で、古賀市の史跡案内ボランティアより、薦野氏・米多比氏が柳川にたどりつくまでの解説を受けることで、予備知識を持って学習に臨むことができた。

現地では、柳川市観光ボランティアガイドが3名つき、参加者は3グループに分かれて見学した。米多比隅では、柳川市居住の米多比鎮久の子孫の方の話を伺うこともでき、参加者も感激していた。

参加者自らボランティアガイドに個別に質問をしたり、各々の情報を交換し合うなどの姿が見られ、大変有意義な現地学習となった。



三柱神社でガイドから柳川の地形やクレークについての話を聞く参加者。



福巖寺住職の話を聞く参加者。この後、立花家の霊廟、重臣の墓に参拝した。

**平成 29 年度
歴史資料館要覧**

2017 (平成29) 年10月 発行

〒811-3103 福岡県古賀市中央二丁目13番1号

古賀市立歴史資料館

TEL 092(944)6214

FAX 092(944)6215